



令和5年4月19日

東京都千代田区四番町5番地3
科学技術振興機構（JST）
Tel：03-5214-8404（広報課）
URL <https://www.jst.go.jp>

「女子中高生の理系進路選択支援プログラム」 令和5年度採択機関の決定について

JST（理事長 橋本 和仁）は、「女子中高生の理系進路選択支援プログラム」における令和5年度採択機関を決定しました（別紙1）。

第6期科学技術・イノベーション基本計画において、研究のダイバーシティの確保やジェンダード・イノベーション創出に向け、中高生、保護者、教員などに対し理工系の魅力を伝える活動などにおいて、女性研究者のキャリアパスやロールモデルの提示を推進し、女性の理工系への進学を促進するため、さらなる拡充を図ることとされています。また、第5次男女共同参画基本計画においても、女子中高生、教員、保護者などの科学技術系の進路への興味・関心や理解を全国的に向上させるための取り組みを推進し、次代を担う女性の科学技術人材を育成することを施策の基本方針としています。

女子中高生の理系進路選択支援プログラムは、これらを踏まえ、女子中高生の理工系分野に対する興味や関心を高め、理系進路へ進むことを志すためのさまざまな取り組みを支援します（1件当たりの支援額：上限600万円／年、支援期間：2年）。

本年度の公募は、令和5年1月17日（火）から2月28日（火）の期間に行い、20件の応募がありました。その後、外部有識者で構成される委員会にて審査し、その結果をもとに10件の機関を決定しました。これにより、令和5年度の実施機関は21拠点となります。

なお、事業の詳細については下記のホームページを参照してください。

ホームページURL：<https://www.jst.go.jp/cpse/jyoshi/>

＜添付資料＞

別紙1：女子中高生の理系進路選択支援プログラム 令和5年度採択機関一覧

別紙2：女子中高生の理系進路選択支援プログラム推進委員会 委員一覧

＜お問い合わせ先＞

科学技術振興機構 理数学習推進部 能力伸長グループ

〒332-0012 埼玉県川口市本町4丁目1-8 川口センタービル

亀井 威則（カメイ タカノリ）

Tel：048-226-5671 Fax：048-226-5684

E-mail：jyoshi-koubo@jst.go.jp

女子中高生の理系進路選択支援プログラム
令和5年度採択機関一覧

実施機関名 「企画名」	概要
<p>八戸工業大学 「めざそう、はたらく 理系女子」</p>	<p>本企画の特色は、以下5点への取り組みである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 女子中高生、教員、保護者対象「はたらく女性ロールモデル紹介」講演会 2) 女子中高生対象の実験体験・フィールドワーク実習、サマーキャンプ 3) 中高教員・保護者向け現地見学懇談会 4) 全体会議、意見交換 5) ロールモデルの情報発信 (ウェブサイト・冊子作成、県内女子中高生への周知) <p>2) では、理系分野で働く女性ロールモデルとの直接交流により、自身の未来像を鮮明に描き、理系進路選択の動機付けとする。以上から、県内の中高生、保護者、中高教員、企業・自治体、関係教育機関などを結ぶことにより、女子中高生の理系進路選択の機会拡大に向けた実施拠点を構築する。</p>
<p>茨城大学 「地元茨城県北部で、 技術者として働く誇りと 喜びを —工学を自身・他者・ 地域のために活用 する女性の育成—」</p>	<p>女子中高生を対象とし、工学をはじめとする理系分野への興味・関心を喚起するための企画を実施する。本企画の長期的かつ最終的な目標は、地元志向の強い茨城県北部の女子中高生、中学校教員、保護者に、多数の工業系企業が所在する地元で、技術者として働くことの誇りと喜びを伝えることである。この目標を達成するために、①ものづくり体験教室（中学生対象）、②キャリア・ワークショップ（中学生対象）、③研究室インターンシップ・講座受講（高校生対象）、④出前授業（高校生対象）、⑤ロールモデルとなる地元企業の女性技術者との交流（中高生対象）、⑥教員研修での座談会（中学校教員対象）、⑦オープンキャンパスおよび学園祭での研究室訪問・講演会（保護者対象）の7つに取り組む。茨城県北部に特化し、地元における女性の活躍を促す本企画は、地方都市共通の課題でもある少子化問題や進学者の流出に伴う産業の担い手不足の解決にも貢献することのできる事業となり得る。</p>
<p>東邦大学 「みんなが輝く未来の サイエンス」</p>	<p>女子医学専門学校としてスタートし、女子在校生の比率が半数を超える東邦大学では、これまでに理系分野で活躍する多数の女性を輩出してきた。約100年に及ぶ理系教育の伝統を受け継ぎ、本企画では、女子中高生のための「連続理科講座」と「進路と将来を展望するワークショップ」を一体的に開催し、若い世代が自分の興味・関心を着実に育てていくための支援を実施する。食やファッションといった身近なトピックスを扱った理科実験講座を通じてサイエンスの楽しさに触れてもらうとともに、自分の「好き」を大切にすることの意味を考え、これからの社会での「幸せ」について話し合うワークショップを開催する。自分の小さな「好き」が、どんな未来につながっていくのか—実験と対話を通じて女子中高生の「夢」が広がることを目指す。</p>

<p>埼玉大学</p> <p>「理工系の豊かなイメージと多様な未来を！ 彩の国・理工系進路選択エンカレッジプログラム」</p>	<p>本企画は、埼玉県を中心に、理工系に関心があるにもかかわらず文理選択で迷っている者だけでなく、そもそも理工系に関心を持つ機会が少ない女子中高生などを主な対象として、理工系の学問の幅広さと面白さを伝えるとともに、理工系への進学をエンカレッジするプログラムを対面型やオンデマンド型などさまざまな方法で提供する。さらに女子中高生の進路に影響を及ぼす教員と保護者も対象とし、教員には理工系女子の将来の職業の広がりや自信を持って進路選択を支援するための情報提供を、保護者には中高生に提供するプログラムを子どもと一緒に体験する機会を提供するとともに、研究現場の見学や大学教員との懇談を通して、理工系女子の多様な将来像を示す。加えて、理工系に関心を持ちながらも、周囲の進学動向から理系進学を諦めることのないよう、女子中高生同士の仲間づくりの場を提供する仕組みをつくる。埼玉大学および「彩の国女性研究者ネットワーク」の社会資源を組み込んだ情報リソースを活用する。</p>
<p>お茶の水女子大学</p> <p>「理系フロントランナー・シーズ発掘・育成・強化プログラム」</p>	<p>進路選択を意識していない女子中学生を主な対象とする理系女性シーズ発掘の取り組みを充実させ、理系分野を学ぶ楽しさを発信する。理系への興味・関心が芽生えた層に対しては、理系進学へのモチベーションの増大を図る多様な取り組みを実施することで、理系女性人材の育成の第一歩を踏み出す。理系への進路選択を真剣に考える層には、理系分野で学んだ後のキャリアパスを提示する。理系への進路選択はゴールではなくスタートであることを理解し、将来はフロントランナーとなり、女性理系人材としての未来を描く意識を醸成させる。</p>
<p>岐阜大学</p> <p>「ぎふ理系女子はばたき応援プロジェクト」</p>	<p>岐阜大学と岐阜県 子ども・女性局 男女共同参画・女性の活躍推進課との強固な連携関係に基づき、ものづくりが盛んな岐阜県の地域特性を生かし、県内の教育委員会だけでなく、研究施設、企業、大学の協力を得て本企画を実施する。大学や企業などで活躍する理系分野の女性研究者や技術者などによる出前授業、岐阜県内の研究施設や企業の見学・交流会および講演会などを通じて、理系進路選択後のキャリアパスについて女子中高生、保護者および教員の理解を促進する。加えて、大学の男女共同参画推進室員が中高等学校の教員や保護者を対象にアンコンシャス・バイアス（無意識の偏見）に関する研修を実施し、進路指導におけるジェンダーバイアスを解消する。</p>
<p>香川大学</p> <p>「ダイバーシティ&サイエンス理系選択応援プロジェクト」</p>	<p>本企画では、女子中高生の進路選択に至る過程で、理系選択を妨げる要因を取り除くとともに、理系研究の魅力と理系キャリアを積極的に発信することを主眼とする。具体的には、香川県教育委員会、高松市教育委員会、香川県との連携のもと、香川大学と香川県が重点を置く研究分野・施策（希少糖を含む瀬戸内圏研究、DXなど）について学び、体験する機会を設けることで、理系分野を身近に感じ、学問的関心を高められるような事業を実施する。県内外の企業訪問や海外の理系ロールモデルとの交流などを通じて、女子学生や保護者、教員のアンコンシャス・バイアスを解消し、理系における女子中高生の進路・キャリア選択を支える体制づくりを目指す。</p>

<p>高知工業高等 専門学校</p> <p>「女性エンジニアが つくる土佐の国」</p>	<p>女子中高生に向けた講演会、体験教室および職場訪問の企画運営を行い、多方面の業種・職種で活躍する理系女性のキャリアおよびメッセージを女子生徒に届けることで、自らの将来像を具現化するきっかけを与え、この生徒たちが女性技術者・研究者の道へと進む支援をする環境整備を行う。上記の全てのイベントでは高知高専の女子学生（主にTGK（Techno-Girls of Kochi KOSEN）の学生）がサポートをする。イベントには教員と保護者にも参加してもらい、両者の理系進路の理解を深めることを狙う。高知県工業会企業が共同機関として参画する他、高知工科大、高知県立大、高知県教育委員会、高知市教育委員会、南国市教育委員会、四万十市教育委員会が連携機関として参画する。</p>
<p>大分大学</p> <p>「女子中学生から 女性開発者へのトラン スフォーメーション ー科学に「ときめく」 女性の持続的育成シス テム開発」</p>	<p>2015～22年度、国の2つの大型事業（ダイバーシティ推進事業、オール大分の人材育成COC（センター・オブ・コミュニティ）+事業）で、大分大学は企業、行政、高等教育機関と極めて深く協働した。この「地域一丸で協働できる」資産を活用し、本事業では、理系進学に舵を切る女子生徒（特に中学生）が地域で増え、同時に、それを応援する社会人も増えることを目指す企画に着手する。本企画の特色は、女性活躍推進に熱心なものづくり企業6社と大学が協働して、DXとものづくり科学への「ときめき」を女子生徒と保護者に伝えようとする点である。保護者と教員には、女子生徒が将来活躍する社会人となるための指導方法の「学び直し」も用意している。この試行活動のバトンを、事業後、おおいた地域連携プラットフォームにつなげる。</p>
<p>宮崎大学</p> <p>「集まれ！宮崎 アマテラスガールズ ～サイエンスの岩戸を 開けてみよう～」</p>	<p>女子中学生を主な対象とした女子中高生のための理系進路選択支援プログラムを実施する。理系選択にはロールモデルや将来像を「知る」ことが重要であり、知ってもらうために必要な「興味をひく」プログラムを企画する。宮崎でなじみ深いアマテラスの「太陽」とつながる、エネルギー、天文、光、環境や、朝起きてから夜寝るまでの実際の生活に理系技術がどのように活用されているか、身近な現象や機器について具体例を挙げて講義や実験体験に取り入れる。女性研究者や女子大学生が県内中学校を訪問し、学校単位で理系の魅力を伝える「サイエンスキャラバン」を導入企画とする。そして、「アマテラスサイエンス体験講座」や「エンジニアリングカフェ」などを生徒が主体的に対話・体験する企画とし、女子中高生の理系進路選択を支援する。</p>

女子中高生の理系進路選択支援プログラム推進委員会 委員一覧

	氏 名	所属・役職
委員長	カトウ マサコ 加藤 昌子	関西学院大学 生命環境学部 環境応用化学科 教授
委員	アラキ ミナコ 荒木 美菜子	埼玉県立戸田翔陽高等学校 教諭
委員	アンドウ タエコ 安藤 妙子	立命館大学 理工学部 教授
委員	ウエサカ ユリ 植阪 友理	東京大学 高大接続研究開発センター 准教授
委員	オカダ ユキオ 岡田 行雄	NPO法人BOON 副理事長
委員	ナメキ ヨウコ 行木 陽子	中央大学 商学部 特任教授
委員	ヤブキ マサノリ 矢吹 正徳	公益財団法人理想教育財団 理事

(委員は五十音順)
(所属、役職は令和5年3月26日時点)